

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

## ムラサキカッコウアザミ

キク科 *Ageratum houstonianum*

原産地：熱帯アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種

### 特徴

キク科の一年生草本。

- 葉** : 円形から卵形の葉で両面に毛が生える。茎の株では同じ箇所から 2 枚の葉が対になって生える(対生)。
- 花** : 茎の先に紫色、ときに白色の頭状花序を咲かせる。暖地だと開花はほぼ周年見られる。
- 繁殖** : 種子繁殖によって分布を拡大する。大量の小さな種子をつけ、風や水流、動物、人間の服、車などによって容易に拡散する。また草刈り等によって千切れた断片からも栄養繁殖を行う。



**影響** : 在来種と競合し、在来植生が衰退してしまうことが懸念されている。周囲の植物の発芽、成長を阻害する物質を分泌することも知られる(アレロパシー)。

**侵入状況** : 低地部から山城の林道沿いなど奄美大島中の至る所で侵入が確認できる。

**対策状況** : 駆除実績のある生育地点もあるが、体系的な防除作業が実施できていない。

**防除のコツ** : ほぼ周年開花するため、駆除の時期は問わない。種子がついている場合は、地面に落ちないように優先的に除去する。根から丁寧に抜き取るのが望ましい。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル ムラサキカッコウアザミ  
[https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338\\_20190520155207-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20190520155207-1.pdf)